

警 察 署 協 議 会 議 事 録

協 議 会 名	令和7年第1回 宮城県古川警察署協議会
開 催 日 時	令和7年2月27日(木) 午後2時から午後4時までの間
開 催 場 所	宮城県古川警察署 大会議室
出 席 者 等	1 協議会委員 宮崎英行委員、氏家弘子委員、及川みや子委員、瀧川まゆみ委員 秀岳芳行委員、本宮言委員、畠山光平委員、新山明美委員 2 警察署側 署長、副署長、副参事会計課長事務取扱、警務課長、留置管理課長 生活安全課長、地域課長、刑事課長、交通課長、警備課長、警務課員
議 事 概 要	別紙のとおり

別 紙

～報告協議事項～

1 管内治安情勢について（署長）

署長から、令和7年1月末現在の管内の刑法犯認知・検挙状況、特別法犯検挙状況、特殊詐欺認知状況、交通事故発生状況について説明がなされた。

○ 質疑応答、意見提言等

【委員】

外国人による犯罪の発生状況はどうなっているのか。

大崎市は、日本語学校開設に伴い外国人が増加すると思うが、警察としてはどう対応していくのか。

自転車の利用に関しては、海外と日本とで全く交通ルールが違うため、交通事故発生を抑止するためにも指導を徹底したほうがいいと思う。

【刑事課長】

外国人による発生は増加傾向にある。

当署においても、中国人、カンボジア人、インド人による犯罪が発生している。

在留外国人が皆が悪いわけではないが、外国人犯罪グループは県外からも来たりするため、徹底した事件検挙等を行っていきたい。

【交通課長】

開講予定の日本語学校からは、交通安全協会に講話依頼がきている。交通課としても学校に対して、交通ルールや自転車の利用方法等指導していく予定となっている。

【署長】

当署としても、日本語学校の開設には危機感をもって対応している。

地域住民が不安に感じていることのほか、崇高な使命感をもって入国する留学生らが、来日後に SNS 等から感化されて犯罪を敢行することもあるので、入国当初に防犯講話として指導する重要性を感じている。

自治体等と連携を密にし、開校後早期に日本のルールを教養して、理解させ、万全を期す予定である。

【委員】

コロナ禍で社会情勢は変わっていたが、現在はコロナ禍以前の情勢に近いと感じている。前年比較に限らず、コロナ禍以前の発生件数等とも比較してみてほしい。

また、特殊詐欺の電話については非常に多くなったと感じている。自宅の固定電話は留守番電話に設定しているが、そのほとんどが特殊詐欺と思われるところからの電話となっている。撃退装置とはどういったものか教えて欲しい。

【生活安全課長】

特殊詐欺電話撃退装置とは、電話をかけてきた相手に「犯罪等の被害防止のために通話内容を録音します」などと警告メッセージを流すものであり、家電量販店等でも販売している。また、台数に限りはあるが、署としても貸出しを行っている。

【委員】

自宅の固定電話には特殊詐欺の電話ばかりきている。最近では詐欺という犯罪が身近なものになっているため、警察官から教示いただいた内容で地域の高齢者に対し注意喚起している。

【委員】

松山地区は、本年2月8日に交通死亡事故ゼロ3000日を達成した。これは古川署の皆さんのおかげだと思う。交通課、松山駐在所を中心として、交通安全運動を徹底した賜である。今後も継続して0を目指していきたいので、今後も手助けをお願いしたい。

【委員】

これから春休みを迎え、子どもたちの自転車の利用が活発になると予想される。一方で、三本木地区では未だにヘルメットの着用率が低い傾向にある。保護者の考え方等も大きな問題だとは思いますが、今後も啓発活動に力をいれてもらい、着用率を向上させてほしい。

【交通課長】

ヘルメットの着用については、あらゆる機会を通じて、教養、啓発活動等を徹底していく。

【委員】

昨年末に交通事故に遭ったが、その日は凄惨な雪の日で警察官の対応も大変そうであった。それにも関わらず、現場に来た警察官から「寒い中待たせてしまい申し訳ない」などと声掛けをいただき、すごく丁寧な対応で感動した。

また、凶悪犯罪の発生となると、防犯カメラ映像が解決の肝になると思う。個人的に防犯カメラによる捜査は、都会のような防犯カメラがたくさん設置されている場所だからできるもので、鹿島台地域ではどうなのだろうかと不安に思う。警察から、防犯カメラを地域に設置するように動くことはできないか。

【生活安全課長】

防犯カメラについては、我々も設置に向けた活動をしており、自治体等に対し、設置をお願いしている。設置した後の維持費等の問題もあるが、防犯協会と連携して対応したケースもある。今後も関係機関と連携し、少しずつでも増加させたいと考えている。

【委員】

交通事故の発生状況が、高齢者の重傷事故が2倍で、飲酒運転事故が1.5倍となっていると説明を受け、まだまだ減らないものだなと率直に感じた。飲酒運転に関しては、散々広報されているところであり、運転しないのが常識であるが、飲酒運転する世代には偏りがあるのか。

また、ニュースで宮城県の少年が特殊詐欺の拠点がある海外に連れ去られたと報道されていたが、なぜそのような状況に陥るのか教えて欲しい。

さらに、高齢者宅の火災が多いような気がするため、地域の方には注意喚起をしているが減少しない状況にある。地域一丸となり、抑止のために活動する必要があると思う。

【交通課長】

飲酒運転事故については、令和6年中、県内では39件、年代別では20代が13名と一番多く、それに次いで50代が二番目に多い状況にあり、20代と50代で発生の6割を占めている。県内では、昭和40年からの統計以降、初めて飲酒運転による死亡事故が0件であったほか、発生件数も減少傾向にある。一方で、当署管内では増加しているので危機感を持ち、取締りの強化や関係団体と連携を密に活動していく予定である。

【生活安全課長】

特殊詐欺の海外拠点に連れ去られた関係については、昨今のネット社会により、知らない人と容易に接点をもてる環境が影響している。SNSや携帯ゲームで知り合い、言葉巧みに海外に連れて行かれるようだ。これまで、女の子が行方不明となれば、性犯罪が疑われたり、子どもの行方不明となれば、家庭不和からの家出や、精神的障害からの失踪という事例があったが、今は特殊詐欺への加担のための誘拐も視野にいれなければならない時代となっている。

今後は、親、学校などからの行方不明届がこのような事件の端緒になり得るため、状況次第で行方不明者の海外渡航状況等も確認する必要があると出てくる。

【刑事課長】

詐欺グループ等犯罪組織が、海外に拠点を作るケースはよくある。日本で活動するよりも捕まる可能性が低いため、そのような方法をとっている。また、闇バイトに加担するケースとしては、脅されてやらされているケースがほとんどである。SNSで簡単に稼げるという広告を見て、応募し、その際に個人情報について詳細に聞かれ、後に闇バイトから抜きたいとなっても、家族に危険が及ぶなどと脅されて逃げられない状況となる。そのため、素行不良少年に限らず、真面目に過ごしている少年が急に巻き込まれるパターンも増加していくものと考えられる。よって、多方面からの広報啓発活動が重要となるため、委員の皆さまからも様々な機会に声掛け等していただきたい。

【署長】

飲酒運転は、交通事故以外に限らず、酒酔い運転などによる検挙もある。そうすると、年齢による偏りはなく、各世代万遍なく発生していると認識している。よって、特定層への働き掛けではなく、県民・市民全体に啓発活動を行っていく必要があると考えている。

また、高齢者宅における火災の関係については、当署管内においても多く発生している情勢にある。その原因は、火の不始末がほとんどであり、大崎消防本部が中心となって対策しているところであるが、我々も危機感を持ち、消防と連携して指導、広報啓発活動を実施していく。

【委員】

特殊詐欺の発生状況について説明を受けたが、古川署だけでこの大きな被害額なのか。

【署長】

そのとおりである。1件の被害で4000万円というものがあつた。この件が被害額

増加に繋がってしまった。現在の特殊詐欺は、騙すテクニックが巧妙であり、投資型の詐欺であれば、数回支払った後に報酬を引き落とせないなどで初めて被害に気がつく傾向にある。店員等による阻止事例は増加しているものの、投資型のようなものの阻止は難しいことから、一人ひとりの防犯意識を高めるためにも、継続して特殊詐欺の被害防止対策・広報啓発活動に力を入れていく。

2 三本木交番の運用変更について

地域課長から、「交番・駐在所の最適化」について、最適化の目的、交番等を取り巻く環境の変化と課題、配置・運用の最適化方針の説明がなされた。

○ 質疑応答、意見提言等

【委員】

日勤制交番になるということは、夜間帯は三本木交番に警察官がいなくなるということか。その際、交番は不在の状態が続くのか。

【地域課長】

これまでも夜間帯はそのような体制で運用している。夜間帯は、古川西交番を拠点にして、三本木交番の管内もカバーする。交番には、署への直通電話も設置しているため、不在状態でも警察官と連絡がとれるようになっている。また、何か事件事故が発生すれば、古川西交番を拠点に活動している警察官に限らず、付近で活動している警察官が現場に向かうことになる。

【委員】

三本木に住む者としては、なぜ三本木交番なのかというのが素直な気持ちである。しかし、説明を受け、日中帯に同じ警察官が勤務しているなどメリットが多くあることから、実情を踏まえて、実態に即した体制なんだろうと感じている。この件は三本木の住民にはすでに周知しているのか。

【地域課長】

町内会長等、地域の行政区長の方々には説明を行っている。住民の方には、説明が記載されているチラシを配布して広報する予定となっている。

【委員】

チラシの配布だけでは、高齢者しか読まないのではないか。また、高齢者はこの内容が記載されているチラシを見ただけでは理解できない可能性があると思う。よって、交番所長等が地域の各種会合の場を活用し広報活動をするのはどうか。

是非、住民が理解できるような説明会を設けて欲しい。三本木交番の日勤制の運用は今後の交番のモデルケースになると思うので、うまく運用できるように住民の理解を得るようにしてほしい。

【地域課長】

県警として公表の流れを計画した上で対応しているところであり、その中でチラシの配布を行うことになっている。お話いただいたように、機会があれば是非とも説明会を実施していきたいと思っている。

【署長】

現在は、関係機関・団体に説明している段階にある。今後、住民の方に理解してもらうために、チラシに限らず、マスコミ等にも広報していく予定になっている。

しかしながら、直接会って説明する機会を設けることは、理解を得る上で重要なものと考えているので、機会を見つけ実施していきたい。

【委員】

確認だが、三本木交番と古川西交番はこれまでも夜間帯は合体して1チームで活動していたのか。それとも、2チームでやっていたのか

【地域課長】

これまでも夜間帯は、1つのチームで三本木交番・古川西交番の管内を対応していた。

【委員】

今後、鹿島台、松山あたりもこのような体制になるのか。

【地域課長】

今後どのようになるかはわからない。

【委員】

昔からの固定観念で、警察官は駐在しているのが当然とってしまっている。

しかしながら、時代の変化を捉え、実情に合わせて変化していかなければ、警察力を発揮できなくなるのは当然のこと。うまく運用できるように協力していきたいと考えている。

3 速度取締指針について

交通課長から、令和7年2月発生の死亡事故の状況、古川警察署の速度取締り重点、管内における交通事故実態、速度違反以外の取締りや警戒活動について説明がなされた。

○ 質疑応答、意見提言等

【委員】

我々市民も気を引き締めて、車の運転をしていきたいと思う。

【委員】

交通安全の実現に向けての指針であるので、是非とも頑張ってください。

4 警察署協議会での提言に対する対応結果について

生活安全課長から、令和6年11月8日開催の警察署協議会において、委員から提言のあった「小中高生の声による防災無線を活用した特殊詐欺被害防止広報」について、対応結果の報告がなされた。

○ 質疑応答、意見提言等

【署長】

広報内容等をもっと孫から祖父母向けに話しているようなものにしたかったが、行政の無線となるため、ある程度の制限があり、今回のような内容となった。しかしながら、子どもの声で広報することは非常に効果的な施策だったと感じている。

【委員】

実際に防災無線を聞いたが、とても良かった。やはり、大人の声よりも子どもの声で伝えられることで、高齢者の心にはより響くと感じた。

【委員】

署長の話のとおり、内容にはある程度の制限があったことは理解したが、やはり

もっと孫目線の内容だとより効果的だと感じた。せめて、お知らせではなく、子どもたちからのお願いというタイトルがよかったと思った。

～報告協議事項外の協議事項～

- 1 運転免許証更新の完全予約制、マイナンバーカードと運転免許証の一体化について
委員から、「運転免許証更新の完全予約制及びマイナンバーカードと運転免許証の一体化について説明してほしい」との要望があり、交通課長から同要望に対し、説明がなされた。

○ 質疑応答、意見提言等

【委員】

説明を受け、理解した。今後、このような形で運用されることが、法律、規則等で決定されているわけであり、我々も周知させられるように広報していきたい。

- 2 不審者対応訓練の警察からの指導要望について

委員から、「保育園等で不審者対応訓練を実施しているが、女性職員が不審者役、制圧役をやっており、実態に則した訓練ができていない。警察に訓練の参加や指導をお願いすることはできるか」との要望を受けた。

○ 質疑応答、意見提言等

【生活安全課長】

これまでも、様々な施設から不審者対応訓練の依頼はいただいている。その都度、日程調整を図った上で対応しているので、そちらの保育園からも依頼の連絡をいただければ対応したいと思う。

- 3 野鳥への餌やりによるトラブルについて

委員から「古川駅東地区を中心に、野鳥に餌やりをしている者がおり、たくさんの野鳥が集まってきている。そのうち、野鳥が人を襲うことも考えられることから心配している」旨の説明がなされた。

○ 質疑応答、意見提言等

【委員】

古川駅東側で鳥に餌をあげている人がいる。鳥は、ハトやトビ、カラスなどであり、餌やりをすると数十羽が集まり、歩行者が通ることができなくなる。自治体が立て看板を設置したが、それでも一向に改善されない状況にある。以前、その人が付近スーパーマーケットで鳥に食べさせるパンを購入しているところを目撃したので注意をしたが、改善されることはなく、私のことを見つけると避けるようになっている。

【委員】

私も注意したことがある。最近、古川駅東地区に限らず、古川旭など様々な公園等で餌やりをしている姿を見かける。公園で餌やりをすると、そこで遊ぶ子どもたちにも危険が及ぶため、本当にやめてもらいたい。

鳥たちは、人から餌がもらえると学んでしまうと、人に対して襲いかかるようになる。しかも、相手はトビなので本当に危険である。餌を与えている時には、上空に数十羽のトビが旋回しており、上空から滑空して餌を捕っている様子を見ると、

あれが人に向けられたら非常に危険だと思う。動物愛護の精神で行っているものだと思うが、通行人等が襲われて怪我をしてからでは遅いので、何か警察でも対応はできないものか。

【地域課長】

自治体と情報共有を図るほか、その付近を管轄する古川駅前交番と対応を図っていききたい。

4 管内の小学校の治安悪化について

委員から、「管内の小学校内で生徒による様々なトラブルが発生しているとの話を聞いており、警察力を持って、対応できないか」と質問がなされた。

○ 質疑応答、意見提言等

【委員】

私は、学習塾を経営しているが、塾に通う子どもたち、その保護者らから、小学校内でのトラブルの相談を多く受けている。聞いた話では、水筒への異物混入が何回かあったようで、誤って口にしていれば間違いなく体調を崩すものであり、また、これはいたずらで片付けられるものではないと思っている。そのクラス内では、そういうことをしている者を見ても、注意すればターゲットにされる可能性もあるため、見て見ぬ振りをしているようだ。学校としては、校内パトロールを強化していくなどの対応をとるようだが、効果があるとは思えない。一步間違えれば傷害罪になってもおかしくない事案だと思うが、こういう案件で警察力を持って対応してもらうことはできないだろうか。

【生活安全課長】

お話のとおりで、異物混入の水筒を飲んでしまって体調不良となれば、傷害罪にもなり得る案件だと思う。小学生が被疑者として犯罪を犯した場合には、触法少年として、福祉施設や児童相談所と連携し対応していくことになる。

【委員】

今の小学校は、このように治安が悪化しており、不登校の生徒も増加しているようだ。いじめの被害者だけに限らず、友だちが不登校になったから自分も登校しないなど我々の時代では考えられないような状況になっている。こういった件で、学校から保護者に話をしても、保護者は自身の子を正当化し、問題は学校にあると話し合いを拒絶し、問題は解決されないまま益々子どもたちのモラルが悪化していく一方となっている。こういった件は小学校に限らず、教育機関から警察に情報共有はされているのか。

【生活安全課長】

先程の水筒への異物混入案件については、把握していない。しかし、自治体、教育機関とは様々な形で連携を図り、対応しているところにある。

【委員】

水筒の件に限らず、物を隠したり、落書きしたり、プールの授業中には危険な行為をされた子もいるようである。小学校では加害生徒に指導したようだが、それに対応を終了し、この案件を周知し注意喚起するようなこともしてない。教員たちがいじめ問題や学校の治安維持に対して行動を起こしていないと感じている。

【署長】

警察としては把握していない案件である。しかし、人命に関わる悪質性の高いものも含まれていることから危機感を抱いている。事件となれば、当事者らから話を聞き対応したいところであるが、我々としてはそういった情報を認知できないと動けない。生活安全課長を中心に、教育機関との情報共有を密にしていき、対応に努めていく。

【委員】

水筒の件のようないたずらが行われているということは、その他にもそれ以上のいたずらが行われているのではないか。

【委員】

最近の子どもたちは、SNS でいたずら動画が容易に見れる環境にあるため、動画内のことを自分も真似してもいいなどという、善悪の区別がつかない子が多い。

近年、子どもの学力低下、認知能力の低下は著しい。しかし、保護者はそれを教育機関の責任にし、自分たちの非は認めない。先生たちもトラブルに対しては積極的に対応しない。トラブルの実行役には注意するが、それを唆した指示役に注意することはない。全責任を実行役に押しつけている。一方で、対応しようと頑張っている先生は、生徒、保護者、他の先生らから責められ、心を病んでしまうケースがとても多い。このように学校の治安悪化が著しい状況から、警察としても何か対応をしていただきたい。

【委員】

今問題を起こしている子どもたちが、このまま大人になると益々問題になる可能性がある。しかしながら、警察が教育機関に対して何でも関与できるものではないと思うので、できる範囲で対応をお願いしたい。

【署長】

学校等、教育機関と連携を密にし、対応していきたい。